

石破首相に刺さる無数のブーメラン 何も感じていないのか、責任追及せぬ自民の存在意義は

2025/6/26 01:00 

阿比留 瑠比

阿比留瑠比の極言御免



首相官邸に入る石破茂首相 = 24日午前 (春名中撮影)

若い頃の大言壮語や絵空事のような理想論は、後で振り返ると恥ずかしいものだが、石破茂首相は今、どんな心境だろうか。過去から飛んで返ってくる無数のブーメランが突き刺さっても、何も感じないのか。

麻生氏に辞任要求

24日には、安倍晋三政権の内閣官房参与で、安倍氏の外交政策スピーチライターを務めた谷口智彦氏が自身のフェイスブックに「発言の主は、16年前の石破茂氏」とつ

づっているのが目にとまった。石破首相が東京都議会選挙の自民党敗北を受けて、平成21年7月13日のブログに投稿した次の文章を紹介したものである。

《「都議選もあくまで一つの地方選挙であり、国政に直接影響するものではない」というのは理屈としては全くそのとおりなのですが、現実には国政に対する批判がダイレクトに出たことを真摯に受け止め、もちろん内閣の一員である私も含めて深く反省し、何を改めるべきかを示さなくてはなりません。そうでなければ落選した都議候補にあまりに申し訳がないというものです》

当時、麻生太郎内閣の農林水産相だった首相は麻生氏に対し、都議選敗北の責任を取って辞任するよう求めたのだった。現職閣僚が首相に辞めるよう迫るのは筋が通らない話だが、「国政に対する批判がダイレクトに出た」ことを深く反省してのことだろう。

ところが、わずか21議席しか獲得できずに大敗した今回の都議選について記者団に問われた首相は、自身の進退には全く触れずにこう述べた。

「この結果の分析はすぐにできるわけではないが、どのような訴えが届かなかったのかをきちんと分析をして、今後に生かしていかなければならない」

大敗の責任すり替え

首相は、今回の都議選結果に現れた「国政に対する批判」も無視している。このどんな結果になろうと自分は悪くないという独特の「石破理論」は昨年10月の衆院選の際もそうで、少数与党に転落するという惨敗を自民党のあり方の問題にすり替え、こう語った。

「自民党は反省が足りないとご叱責をたまわった。身内の論理、党内の理屈は一切排除し、政治とカネについて抜本的な改革を行っていく」

今回の都議選の大敗に関しても、自民党内には政治とカネの問題が主因だという見方があるが、そうではないと考える。年収の上振れが何年も続いてもかたくなに減税は拒絶し、経済成長の方策は企業に大幅賃上げを求めるだけという石破内閣の無策ぶりや、後手後手の流入外国人への対応など、石破政治そのものに「ノー」が突きつけられているのではないか。

4月10日の当欄でも紹介したが、大事なことなので再掲する。首相は平成19年7月の参院選で当時の安倍首相率いる自民党が大敗した際には、夕刊フジのインタビュー記事でこう明言していた。

「責任を取るべき人が取らないのは組織ではない。その責任を追及する声が上がらない組織は病んでいる。このまま追及する声がないようなら、そんな党は存在意義がない」

「私だったら即座に辞めて、落ちた人のところに謝って回る」

安倍、麻生両氏に選挙敗北の引責辞任を求めておきながら、自分はいくら選挙で負けても責任を取ることは決して考えない。そんなトップが平気な顔で首相を続けていることに対し、厳しく責任を追及する声がほとんど聞こえてこない自民党に、存在意義はあるのだろうか。（論説委員兼政治部編集委員）

©2020-2025 ©2020-2025 The Sankei Shimbun. All rights reserved.